

「これでいいのか静岡県連」

後藤隆徳

♪…ちから～を あわせつくりし きぼう みらい あおぎて みれば はくぎん つもる しずおかけんれん あああああろうざん……。

第57期・静岡県連総会が3月5日、「静岡県連のうた」で粛々と始まった。「うた」の趣旨通り会員が力を合わせ、「希望・未来を創る」総会だった。

県連総会って何だろう。まず、一年の活動総括。良かった点、至らなかった所を点検・検証し、次年度に繋いでゆく。決算・予算は、総括した活動に準じて調整・配分する。司るのは執行部である。



今回の総会で一番理解に苦しんだのが、予算案のブロック活動費が東部・中部が同額だったことだ。ブロック活動費は、ブロックが県連以外でより一層、活動を活発化させるため設けられたもの。私が理事長時代始まったもので、当時、東部30、000円、中部20、000円、西部10、000円だった。

算定基準は、ブロック人数比。ブロック費が連盟費の「補助金・分配金」「バック・マージン」と考えれば、在籍人数に等しく配られるのが自然である。各部予算と性格が違うものだ。

連盟費は、一人年間2520円。会は在籍会員数で収める。連盟費が人数比で徴収され、再配分のブロック費がそうでないのは矛盾する。そうならば、連盟費も人数比でなく、今回のブロック活動費同様「人数非」にすべきだ。

今期、東部人数は192名、中部は126名。66名違う。金額にすれば、16万6千320円。それが同額とは、発想に無理があり、根拠が分からない。東部とて会員数が多く、経費は相応に必要となる。中部だけ個別扱いは極めて遺憾である。



しかし、百歩譲って、「そうであってもいい」が、それには、執行部の明快な提案説明が必要だった。今回、執行部から、「何故、そうなった」「何故、そうなのか」の誰でも分かる、皆が納得出来る、合理的説明が最後までなかった。執行部が説明できなければ、誰がするのか。

執行部は、何故、自身が説明できない予算案を提出したのか。結局、「証言」にあるように執行部・理事会が、しっかり話し合っただけで予算案を提出した訳ではない。予算案が理事にメールで送られたのは1月28日。総会まで1ヶ月あった。

時間は十分あった。例年と大差ない予算案ならまだしも、問題がある予算案に、何の補足説明もなく、メール一本で済ませた。

これでは、執行部が「理事会の確認と承認」なく、お手盛りで予算化したと思わざるを得ない。お金に関わることは微妙である。予算案を理事会に諮るべきであった。



近年、静岡県連会員数減少が著しい。今期組織目標は、400名復活を掲げた。が、最

近、中型クラブが来期の退会を自身の総会で決めた。

以前からよく聞かれるのは「魅力がない」「求心力がない」「メリットがない」「連盟費が高い・無駄」である。

では、新会員を増やすことは難しいが、せめて現会員を退会させない、「努力・工夫・戦略」を考えなければ先はない。

今回のように「訳不明・不明朗・不公平・不合理・不自然・不可解・説明責任なし・中部偏重」が続けば、ますます会員の気持ちは県連から遠ざかる。

それでは、静岡県連の「希望・未来を創る」ことは出来ない。

証言

1月の理事会では西部はブロックの活動がないので辞退すること。中部は財政が少なく会合に集まる役員には交通費もだせない。

などの意見が出て、(年間1万)少し上げていこうとなりました。その時は細かい金額は検討出来ませんが、財政部長、理事長等で具体化してのでないかと推察します。

金額は総会資料で知りました。

昨年より理事になり、財政に限らず全ての部が総会資料見ればわかりますが、ちゃんと機能していません。今の県連の実状を直視する必要があるように思えます。

2023/03/24



2023/03/05 県連総会